

過古

梶井基次郎

青空文庫

母親がランプを消して出て来るのを、子供達は父親や祖母と共に、戸外で待っていた。

誰一人の見送りとてない出発であった。最後の夕餉ゆうげをしたためた食器。最後の時間まで照っていたランプ。それらは、それらをもらった八百屋やおやが取りに来る明日の朝まで、空家の中に残されている。

灯が消えた。くらやみを背負って母親が出て来た。五人の幼い子供達。父母。祖母。――賑にぎやかな、しかし寂しい一行は歩み出した。その時から十余年経った。

その五人の兄弟のなかの一人であった彼は再びその大都会へ出て来た。そこで彼は学校へ通った。知らない町ばかりであった。暮会所ごかいしよ。玉突屋。大弓所。珈琲店コーヒー。下宿。彼はそのせせこましい展望のを逃れて郊外へ移った。そこは偶然にも以前住んだことのある町に近かった。霜解け、夕凍じみ、その匂いには憶おぼえがあった。

ひと月ふた月経った。日光と散歩に恵まれた彼の生活は、いつの間にか怪しい不協和に陥っていた。遠くの父母や兄弟の顔が、これまでになく忌いまわしい陰を帯びて、彼の心を紊みだした。電報配達夫が恐ろしかった。

ある朝、彼は日^{ひあたり}当のいい彼の部屋で座布団を干していた。その座布団は彼の幼時から
の記憶につながれていた。同じ切れ地で夜具ができていたのだった。——日なたの匂いを
立てながら縞目^{しまめ}の古りた座布団は膨れはじめた。彼は眼を瞞^{みは}った。どうしたのだ。まるで
覚えがない。何という縞目だ。——そして何という旅情……

以前住んだ町を歩いて見る日がとうとうやって来た。彼は道々、町の名前が変わっては
いないかと心配しながら、ひとに道を尋ねた。町はあった。近づくにつれて心が重くなっ
た。一軒二軒、昔と変わらない家が、新しい家に挟まれて残っていた。はっと胸を衝^つかれ
る瞬間があった。しかしその家は違っていた。確かに町はその町に違いなかった。幼な友
達の家が一軒あった。代が変わって友達の名前になっていた。台所から首を出している母
らしいひとの眼を彼は避けた。その家が見つかれば道は憶^{おぼ}えていた。彼はその方へ歩き出
した。

彼は往来に立ち竦^{すく}んだ。十三年前の自分が往来を走っている！——その子供は何も知
らないで、町角を曲って見えなくなってしまう。彼は泪^{なみだ}ぐんだ。何という旅情だ！そ
れはもう嗚咽^{おえつ}に近かった。

ある夜、彼は散歩に出た。そしていつの間にか知らない路を踏み迷っていた。それは道も灯もない大きな暗闇であつた。探りながら歩いてゆく足が時どき凹みへ踏み落ちた。それは泣きたくなる瞬間であつた。そして寒さは衣服に染み入ってしまった。

時刻は非常に晩くなつたようでもあり、またそんなでもないように思えた。路をどこから間違つたのかもはつきりしなかつた。頭はまるで空虚であつた。ただ、寒さだけを覺えた。

彼は燐寸の箱を袂から取り出そうとした。腕組みしている手をそのまま、右の手を左の袂へ、左の手を右の袂へ突込んだ。燐寸はあつた。手では掴んでいた。しかしどちらの手で掴んでいるのか、そしてそれをどう取出すのか分らなかつた。

暗闇に点された火は、また彼の空虚な頭の中に点された火でもあつた。彼は人心地を知つた。

一本の燐寸の火が、焰が消えて炭火になつてからでも、闇に対してどれだけの照力を持つていたか、彼ははじめて知つた。火が全く消えても、少しの間は残像が彼を導いた——突然烈しい音響が野の端から起こつた。

華ばなしい光の列が彼の眼の前を過よぎつて行つた。光の波は土を匍はつて彼の足もとまで押し寄せた。

汽罐車の烟けむりは火になつていた。反射をうけた火夫が赤く動いていた。

客車。食堂車。寝台車。光と熱と歓語で充たされた列車。

激しい車輪の響きが彼の身体に戦せんりつ慄を伝えた。それははじめ荒々しく彼をやつつけたが、遂には得体の知れない感情を呼び起こした。涙が流れ出た。

響きは遂に消えてしまった。そのままの普段着で両親の家へ、急行に乗つて、と彼は涙の中に決心していた。

青空文庫情報

底本：「檸檬・ある心の風景 他二十編」旺文社文庫、旺文社

1972（昭和47）年12月10日初版発行

1974（昭和49）年第4刷発行

初出：「青空」青空社

1926（大正15）年1月号

※表題は底本では、「過古《かこ》」となっています。

※編集部による傍注は省略しました。

入力：j.ujiyama

校正：野口英司

1998年9月19日公開

2016年7月5日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られ

ました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

過古

梶井基次郎

2020年 7月17日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>